
おはなし会

〈栗原公民館〉

○開設趣旨 栗原公民館サークルの協力により子ども達に絵本に親しむ機会を提供する。

○期間 9月12、11月14、12月12、1月9日、
2月13日、3月13日の土曜日（計6回）
※10月10日は台風14号接近のため中止

○時間 午後3時00分～午後3時30分（計3時間）

○対象・定員 市内在住の幼児又は小学生及び保護者・20人

○参加者 参加延べ人数95人

○講師 栗原公民館サークル おはなしグループほたる

○事業内容

回	月 日	内 容
1	9月12日	絵本、パネルシアター、大型絵本、紙芝居
2	11月14日	絵本、大型絵本、紙芝居、パネルシアター
3	12月12日	絵本、紙芝居、大型絵本、パネルシアター
4	1月 9日	獅子舞、大型絵本、絵本、パネルシアター、紙芝居
5	2月13日	絵本、大型絵本、わらべうた、紙芝居、パネルシアター
6	3月13日	絵本、紙芝居、大型絵本、パネルシアター

○ま と め

4月～8月は新型コロナ感染拡大防止のため、中止となった。

9月から講座を開催したが、10月10日は、台風14号接近のため中止となる。

12月、1月はスペシャルで開催し、12月は最後に参加者全員で手作りマスカラによる”ジングルベル”を、1月は最初に手作りの獅子舞を登場させ、終了後に折り紙で作った独楽を子どもにプレゼントした。

2月は最後に皆で”ゆきやこんこ”を小さい声で歌った。

終了後、折り紙で作った独楽を子どもにプレゼントした。

3月は最後に“お花が笑った”を歌い、折り紙で作った独楽とかえるを子どもにプレゼントした。

毎回、見に来た小学生以下の子どもにペコちゃん＆ゾウキリンのシールをプレゼントした。

皆毎回、おはなし会を楽しみに見に来ていた。

楽しい生け花～季節の花を使って生け花を楽しもう～

〈 栗 原 公 民 館 〉

- 開 設 趣 旨 栗原公民館サークルの協力により季節の生け花を楽しむ。
- 期 間 令和２年１０月１３日（火）
- 時 間 午前１０時～午前１１時 （計１時間）
- 対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の方・５人
- 参 加 者 ６人
- 講 師 楽しい生け花の会 河野 克伊
- 事 業 内 容 季節の花を使って花を楽しむ
- ま と め

花の材料は、くじゃく草、紅葉ヒペリカム、ワレモコウ、ポンポン菊、クルマの花材を使用した。

秋の風景をイメージして紅葉ヒペリカムを主材にする。

ワレモコウは、散らして生けても固めて生けてもどちらでもよいことやポンポン菊は、大きいのであまり高く生けない。

また、華道池坊では、花を飾る場所や眺める視点の高さに気配りをし、空間に合う花を生けていった。

生けた花の風景がきれいに見えるようにとの説明があった。

秋の季節にふさわしい花は、生け花の経験がない方もコロナ禍で一息ついた癒される時間になった。

栗原公民館サークルの協力を得て久しぶりの講座開催となった。



人権学習

〈 栗 原 公 民 館 〉

- 開 設 趣 旨 人権問題について考える
- 期 間 令和2年10月17日（土）
- 時 間 午前10時～午前11時10分 （計1時間10分）
- 対 象 ・ 定 員 栗原公民館運営委員・9人
- 参 加 者 4人
- 教 材 「V O i c e（ボイス）人権の教室」約38分
- 事 業 内 容 第1回利用者懇談会運営委員会の後半に生涯学習スポーツ課から借りたDVDを視聴した。
- ま と め

「オリンピック・パラリンピックと人権」「北朝鮮による拉致問題」「子供の人権（いじめ問題）」の3部構成になっており、中学生・高校生合わせた3人が、招待状を見ながら休日の教室に集まってきて、授業を受ける構成になっている。

「オリンピック・パラリンピックと人権」では、オリンピック・パラリンピックの歴史は、人権の歴史で、女性は、第2回1900年パリ大会で初めて参加が認められ、パラリンピックは、1960年ローマ大会から開催されるなど多様な背景を持つ人々がお互いを尊重していくために大切なことは何かという事を学んだ。

「北朝鮮による拉致問題」では、拉致問題の現状について学び、解決へ向けて発信している人々の声を聞き1970年代から全国各地で不自然な形で行方不明になる人が多発したが、800名を超える日本人が拉致された可能性があり被害者の内5名しか帰国を果たしておらず、当たり前な生活が送れることのかげがえのなさという事を学んだ。

「子供の人権（いじめ問題）」では、いじめに関する多くの大人が持っている誤った認識を問い直し、いじめる側に寄り添うことの大切さ、いじめを失くしていくために一人一人が、地域ぐるみで何ができるのかという事を学んだ。

「人権」を自分の問題として、また、日常の問題として考える機会となった。

クラフト作り～小物入れを作ろう～

〈 栗 原 公 民 館 〉

- 開 設 趣 旨 栗原公民館サークルの協力により小物を入れるクラフトを作る。
- 期 間 令和２年１１月１８日、１２月２日の水曜日 （計２回）
- 時 間 午前１０時～午前１１時 （計２時間）
- 対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の方・１０人
- 参 加 者 ８人 参加延べ人数 １３人
- 講 師 栗原同好会クラフトサークル 佐藤 眞知子
- 事 業 内 容 小物を入れるクラフトを作る
- ま と め

３月の講座が中止になり、講師の好意により１１月に開催することが出来た。
クラフトの初心者向けにあらかじめ材料は用意されていた。

クラフトを交互に編みあげて組み合わせていけるように作品を作りあげていった。

参加者からも「講師の説明が丁寧でわかりやすかった。難しいと思っていたが、意外に簡単にすすみ取り組みやすかった。講座に参加して学べる場所があり、充実した１日になった。出来上がったかごは、小物入れに丁度よい大きさだった。」などの声を頂いた。

コロナ禍で中止になった講座開催を心待ちにした受講者は、クラフト作りを楽しんだ。

クラフト作りの講座からサークルに参加したい希望者が３名会員となった。

１時間の時間内で作品が出来ていない方のために、１２月２日にも開催した。



干支の丑を折る

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 栗原公民館サークルの協力を得て折り紙で干支の丑を折る
- 期 間 令和3年1月27日（水）
- 時 間 午前10時～午前11時（計1時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・10人
- 参加者 7人
- 講師 新座折り鶴の会 本多 秀子
- 事業内容 干支の丑を折る
- まとめ

新型コロナウイルス感染防止のため、緊急事態宣言が発令する中で、感染防止対策をしっかりと講座開催をすることが出来た。

この講座を楽しみにしている方々の要望を受けて、十二支の最後の丑を折った。

「コロナ禍で講座が少なくなり、少人数でもこうして講座があれば家から外出するきっかけになり、出かける気持ちになる。講師には、長年により毎年、干支を教えてもらっていた。十二支を揃えることを楽しみにしていた。途中からの参加なので、まだまだこれからも講座を続けて頂きたい」等アンケートを頂いた。

丑の折り方を細かく説明した資料付きと講師の丁寧な教え方で干支の丑が可愛く仕上がった。



絹地で作る幸せを呼ぶふくろう

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 縁起の良いふくろうを絹地で作る
- 期 間 令和3年2月19日（金）
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・10人
- 参加者 10人
- 講師 つるし飾り講師 三ツ矢 美代子
- 事業内容 ふくろうを作る
- まとめ

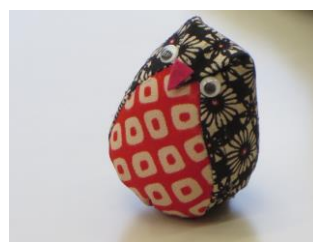
緊急事態宣言が発令する中で、感染対策をとりながら、講座開催となった。講座の募集では、定員10名に対し10名以上の方の申し込みが殺到した。

手触りの良い絹の生地を使い、個人では、なかなか作ることの出来ない柔らかみのある温かい可愛らしいふくろうを仕上げた。

「最後には、もう1個ふくろうを作ってみたい。又、講師の作品（つるし飾り）を見て同じ物を作りたい。」ということから新規サークル（ふくろうの会）が立ち上がった。

作品は、受講者のふくろうをホームページ用の写真に収めた。

コロナ禍により人と人のつながりが希薄になり仲間作りのきっかけとなる講座になった。



フラワーアレンジメント

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 気軽に出来るフラワーアレンジメントを作る
- 期 間 令和3年3月6日(土)
- 時 間 午後2時～午後4時(計2時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・10人
- 参加者 10人
- 講師 日本フラワーデザイナー協会 斯波 直美
- 事業内容 フラワーアレンジメントを作る
- まとめ

フラワーアレンジメントに使用する花材を入れるバスケット・ウォータースポンジの説明があった。

バスケット・ウォータースポンジは、面取りをしていないと花が水を吸いあげない為、中まで水が入りこまないの、花が枯れる原因になることや水をしっかりと吸わせることがどう生けるかより大事ということを学んだ。

花材は、レモンリーフ・トルコ桔梗・スプレーカーネーション・こでまり・チューリップ・ストックカルテット・レースフラワー・ヒペリカムの8本を用い作品の幅や生けていく順序、置く場所を想定して、花の顔を見ながら差し込んでいった。

コロナ禍で落ち込んでいた気持ちが花から心を春のように明るくしてくれた。

花の持つ力でフラワーアレンジメントを続けて行いたい方「かすみ草の会」のサークルが立ち上がった。



コスモス学級～大人の環境講座 エコな暮らし～

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 概ね55歳以上の方を対象に生きがい発見の場とする。
- 期 間 令和2年11月14日（土）
- 時 間 午前10時～午前11時（計1時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・15人
- 参加者 8人
- 講師 環境教育支援ネットワークきづき 荻原 洋志
- 事業内容 大人が学ぶ環境講座
- まとめ

産業革命以降、石油で出来ているプラスチックを使うことにより、ごみ袋等の使用したゴミが海に捨てられ、水は濁り魚が汚染されサンゴ礁が絶滅の危機になり、環境問題を考えるようになった。

地球温暖化で南極の氷が溶け生態が壊された。

日本では、町に熊が出没し家のごみをあさるのは、山の自然が少なくなったからとの話があった。

世界や日本の環境を考える上で私達が身近にエコな暮らしを家庭の中で継続して出来ることを受講者と考えながら一人一人の生活で何が出来ているかを聞いた。

「自家用車を使わずに歩く。お風呂のお湯を洗濯水に使う。暑い時期は、エアコンをよく使うため1台で済むように家族がリビングで過ごす。」などの様々な自宅で取り組んでいるエコの話聞いて学んだ。

